都政第　２９６　号
平成２０年１０月２０日

国土交通省道路局長

金井　道夫　様

鳥取市長　竹内　功

今後の道路行政についての意見・提案について（提出）

平成２０年９月１９日付、国道企第３７号で依頼のあったこのことについては、別紙のとおりです。

今後の道路行政についての意見・提案　　様式①

①道路行政全般について改善すべき点、要望や提案　　鳥取県鳥取市

【真に必要な道路の基準について】

現在、道路整備を進める上での基準となっている渋滞対策、交通事故対策等は、人口集積地域、すなわち大都市部に優位なものとなっている。ナショナル・ミニマムや地域間格差の是正、地域間競争の公平性の確保などの観点から、真に必要な道路の基準を白紙の状態から見直していただきたい。例えば、

① 高次医療施設へのアクセスについて、６０分圏内の人口カバー率○％未満。
② 交通死亡事故多発箇所の改善について、当該箇所における発生率が地域全体の○％以上。
③ 大型車両が通行可能な道路の代替路線が未整備又は代替路線があっても迂回時間が○倍以上かかる地域。
④ インターチェンジに３０分以内で到達できる地域の人口カバー率○％未満。
⑤ 高速道路ネットワークがあれば７日間前後の周遊観光が可能な地域であるにもかかわらず、当該地域のポテンシャルを活かしきれていない地域。
⑥ 高速道路ネットワークがあれば農林水産物や工業生産品の出荷など大都市部の経済活動を支えることが可能な地域であるにもかかわらず、当該地域のポテンシャルを活かしきれていない地域。

【道路整備の優先順位について】

さらに、真に必要な道路整備の優先順位を決める際には、「真に必要な道路の基準」に加え、以下についても基準とすべきである。

① 過去５年間の地域の世帯当りの年間道路関係諸税支払額。（多いところを優先すべき）
② 過去５年間の地域の総生産に占める道路整備投資額の割合。（多いところを優先すべき）
③ 過去５年間の地域の地方公共団体の決算における投資的経費の割合。（少ないところを優先すべき）
④ 有効求人倍率の低い地域の整備促進
⑤ １人あたりの県民所得が低い所の優先整備

【その他】

以上のような観点から、道路整備の遅れた地域を重視しなければ、既に道路が整備された地域は、財源を教育や福祉、企業誘致に使うことができるため、地域間格差を一層拡大させてしまう。今後激しさを増す都市間競争の中で、真に必要な道

路整備は、地域間格差の是正や地域の自立的発展に繋がるものでなければならない。したがって、道路整備の遅れた地域へ財源の大幅な重点配分を行い、大都市部以外の地域のことを真摯に考えた措置を講じるとともに、地域間格差が拡大しないような財政制度を構築すべきである。

道路特定財源の一般財源化により、財源の争奪戦が繰り広げられることは確実である。地方が自立し国土が発展していくために最も重要な社会基盤の一つである高速道路の早期開通は、地域住民にとって切実なる願いである。道路特定財源の使途総点検、制度の目的から逸脱した支出・無駄な支出の徹底的な削減を図ることは当然であるが、国が、真に大都市部以外のことを考えて、改めての中期計画を策定することを強く要望する。

今後の道路行政についての意見・提案　　様式②

②－１　地域の現状と抱える課題　　鳥取県鳥取市

○現状	○ 課題
①国道が事故や災害で利用できなくなったり、渋滞などで道路としての機能が低下した場合の代替路がない。 ②中心市街地の再生は地域経済浮揚の死活問題であることから、中心市街地活性化基本計画を策定し、道路等都市基盤の見直しなどに着手したところ。 ③道路の維持管理費がますます増大し、老朽化した橋梁・トンネル・街路灯などの安全施設に対する維持補修に今後約１００億円程度の財源が必要であり、財政を圧迫することが想定される。安全性の確保のために、緊急の対応が必要。 ④例えば山陰ジオパーク構想など、本市は近隣地域との連携を進めているが、他の地域と十分競争ができる資源を持っているにも拘わらず、高速道路がないために競争機会を奪われている。	①山陰道の鳥取県内の供用率は未だ約４割に過ぎず、本市の「瑞穂～青谷間」は、鳥取県内で唯一、事業化されていないので早期事業化が課題。 ②駅前ターミナルの機能強化、公共交通システムの再編・整備、歩道・自転車道の分離等が課題。 ③老朽化した橋梁やトンネルの改修、生活道路の整備に要する事業として、施設の老朽化による陥没や補修を重ねてきた路面の安全性の低下などが課題。 ④真に必要な道路整備を行うための財源を確保し、道路整備が特に遅れている地域への配分を高め、一層の充実を図ることが課題。

今後の道路行政についての意見・提案　　様式③

②－２　地域の目指すべき将来像　　鳥取県鳥取市

市民の人権が尊重され、市民一人ひとりが夢や希望、生きがいをもち、日々いきいきと「輝き」つつ安心して暮らすことができるまち。地域に根ざした文化や伝統が息づき、また、伝統産業や企業の経済活動、さらに、そこに働く若者をはじめとする市民の多彩な活動でにぎわいと活気があふれるまちやむら。

これらの輝く市民の活動が、それぞれの地域に独自の「きらめき」をもたせ、新市全体として大きな輝きを放つことになる。

このようなまちを実現するため、働く場の確保に努めるとともに、子どもたちの夢を翔たかせる教育環境と生きがいをもち共に支え合う福祉環境を整備し、地域の歴史や文化を大切にする、コミュニティー活動が盛んな「快適都市」づくりを進めます。さらに、豊かな自然や風土を保ち、環境問題に積極的に取り組むことにより、循環型社会の実現をめざす「環境都市」づくりを進めている。

こうした取り組みを通じ、新市が山陰最大の都市として産業、文化、教育、福祉、環境などの各分野において、山陰の発展をリードする日本海地域有数の中核都市として飛躍するため、市民がいきいきと輝き、地域の個性がキラリと光り、市民生活が整い、環境との共生が図られた都市、すなわち「　人が輝き　まちがきらめく　快適・環境都市　鳥取　」をめざしている。

【２０万都市鳥取市のさらなる前進】

① 高速道路を活かした地域経済の活性化
② 観光資源の魅力アップにより観光客の大幅増加
③ 人口が増加していく住み良いまちづくり
④ 地域コミュニティーの充実と強化
⑤ 市民との協働と市民サービスの向上

今後の道路行政についての意見・提案

様式④

③道路施策の重点事項（代表事例、期待する効果や評価等）

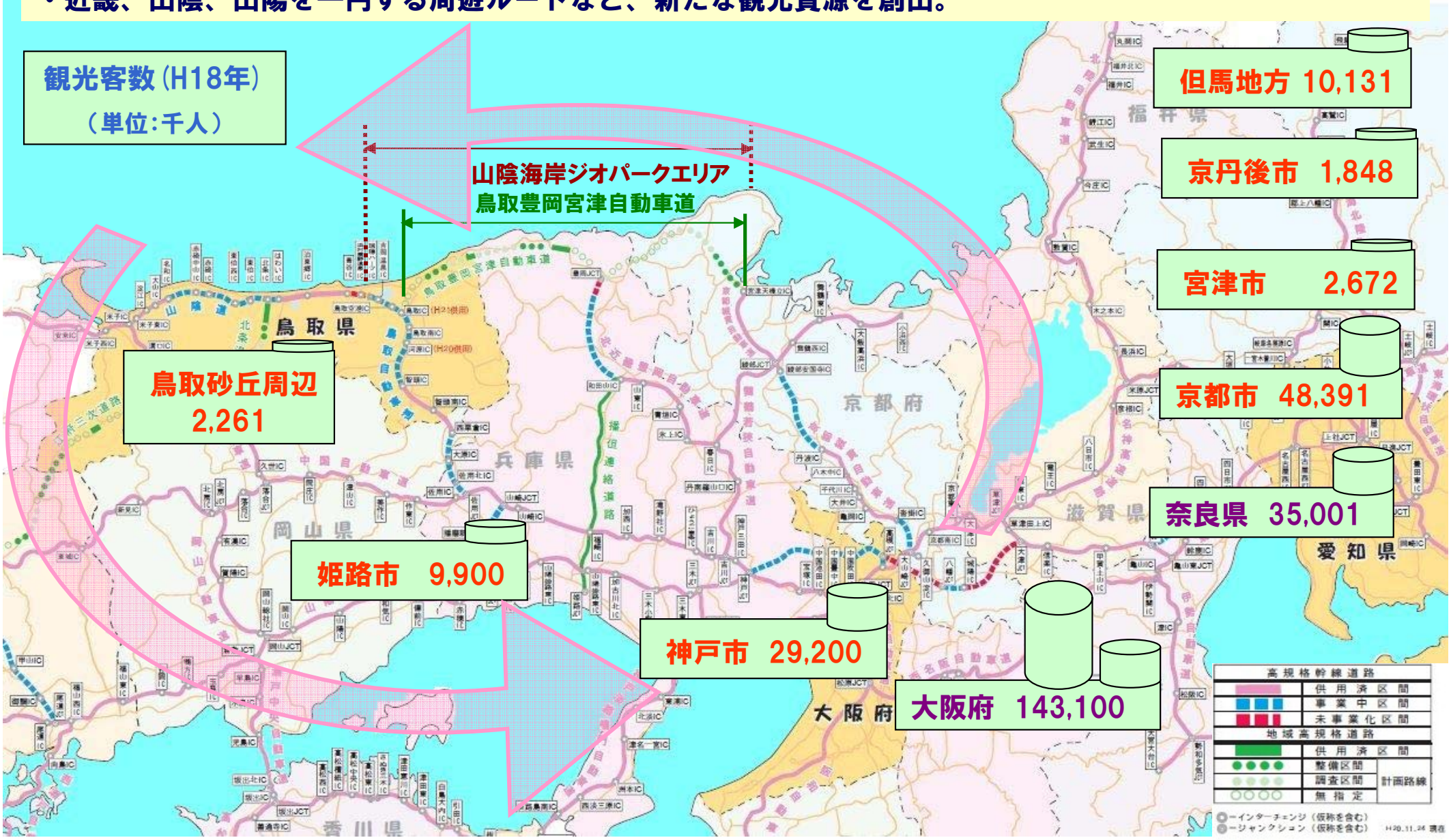
鳥取県鳥取市

○ 重点事項	○ 代表事例	○ 期待する効果や評価等	○ その他
地域活力の向上	①本市周辺地域においては、中国横断自動車道姫路鳥取線を始め、高規格道路山陰自動車道、地域高規格道路鳥取豊岡宮津自動車道などの骨格道路網の整備と県道、市町村道に至る体系的なネットワークの形成が急務となっている。 ②高速道路開通をにらんで市場開拓・販路拡大に取り組み、農林水産業・製造業等の振興と雇用拡大を図る。 ③山陰ジオパーク構想を進めており、広域観光圏とするためには、鳥取豊岡宮津自動車道の整備が急がれる。 ④鳥取市中心市街地活性化基本計画による魅力あるまちづくりを推進する。鳥取駅前・賑わいのまちづくり実証事業を、平成２０年１０月４日～１３日に実施し、駅前に賑わいを創出する実験を行った。	① 高速道路を活かして、企業誘致などによる地域経済の活性化と雇用の創出が期待できる。 ・ 企業誘致等により、平成１８年度から平成２０年度までの間に約１，１３０人の雇用創出を図り、地元雇用の促進に繋がっている。 ② 高速道路の整備と観光資源の魅力アップにより観光客の大幅増加が期待できる。 ・ 砂の美術館や２００９鳥取・因幡の祭典など観光に力を入れている効果により、関西からの入込み客が増えている。 ③ 京都・大阪・神戸を巻き込んだ周遊観光が期待できる。 ④ 中心市街地の賑わいと活性化。	

鳥取豊岡宮津自動車道整備による周遊型観光資源の創出

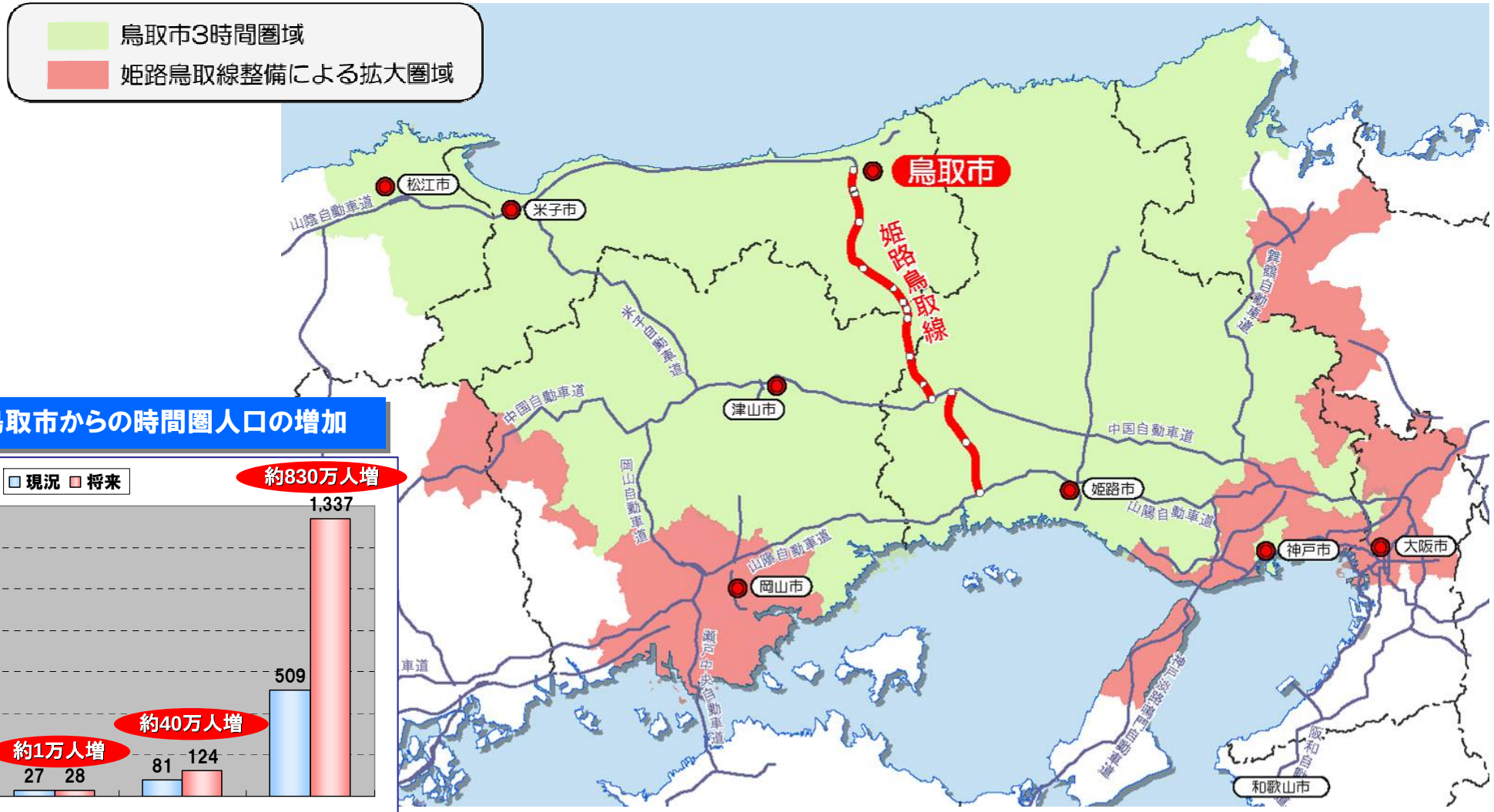
鳥取豊岡宮津自動車道を整備し、山陰自動車道、姫路鳥取線、北近畿豊岡自動車道及び京都縦貫自動車道とのネットワーク化により、

- 国指定天然記念物である「鳥取砂丘」、「玄武洞」、「天橋立」など世界でも貴重な地質遺産を活かした「山陰海岸ジオパーク構想」を実現。
- 近畿、山陰、山陽を一円する周遊ルートなど、新たな観光資源を創出。



姫路鳥取線の開通により、日帰り圏が拡大

・姫路鳥取線の整備により、鳥取市日帰り圏（3時間圏）人口が、約500万人から約1300万人に増加し、大都市圏を含めマーケット規模が大幅に増加。



※人口はH12国勢調査報告による。圏域は市町村役場間の所要時間に基づき設定。
※所要時間は、H11センサス混雑時間旅行速度により算出。ただし、姫路鳥取線の速度はV=80km/hとした。